

# コンクリート舗装への期待

(上)

全生連近畿地区本部  
協組運営研修会

山田 大阪市立大  
名誉教授の講演要旨

全生工組連近畿地区本部(関武本部長)が2月22日に大阪市のリーカロイヤルホテルで開いた第24回「協組運営研修会」で、山田優大(大阪市立大学名誉教授(都市リサイクル工学研究所代表))が「コンクリート舗装に期待する」をテーマに講演した。土木学会舗装工学委員会委員長、日本道路協会舗装委員会委員などを歴任。現在も関西道路研究会舗装調査研究委員会委員長など要職を担っている。アスファルト舗装に造詣が深い、従来指摘されたコンクリート舗装の短所を克服できれば、現在は普及促進の好機だと語り、関係者の取り組みに期待を寄せた。2回に分けて連載する。

## 再評価される耐久性

### 原油高でアスファルト使用に疑問

私は大学ではアスファルト舗装を中心に、それに関する建設材料を長年研究してきた。その経験から、もう少しコンクリート舗装も普及させてはどうかと先行きに期待したいと思っている。

昔は舗装している道路自体が少なかったが、ほとんどがコンクリート舗装だった。多田宏行先生の著作『語り継ぐ舗装技術』によると1960年

が60%と多かったが、特に61年から67年にかけてアスファルト舗装が急増し、以降は舗装といえはアスファルトといことになった。そういう状況の中で、なぜ今、コンクリート舗装なのかということになるが、

比較したわけだが、白がた。ただし、昨今のように優れている点は耐久性に

じ、実物大の試験舗装を行い、各種の試験車両を2年間連続走行させて舗装の損傷程度を調査し、62年に結果が発表された。このAAASHO道路試験により「コンクリート舗装はアスファルト舗装の低い成分から順番に取り出して製品化する。最後に残るのがアスファルトだ。ところが、最近その精製工程が明らかになってきた。蒸留だけではない、各種操作をすることによって、必要なものを必要だけ創り出す技術が開発された。例えば廃プラスチックは熱分解し、再び石油に戻すケミカルリサイクルシステムも開発されている。

「耐久性」、「材料供給の動向」、「舗装に求められる機能」をキーワードに現状を考えてみたい。

経費節減の時代になると、耐久性に優れている点ばかりを再評価され、かなり重要視されている。

一方、わが国でアスファルト舗装が急速に普及した背景は、多田先生の著作によると①自動車交通の急速な発達(高度経済成長に伴い道路舗装を急ぐ必要があった)②自動車車の性能向上(走行の高度化事業としてアスファルト舗装が

道路舗装をコンクリート(白)にするか、アスファルト(黒)にするかという議論が

が、トンネルには必ずといっていいほど採用されているように視認性が良好なことだ。短所は養生期間が長く、交通開放が遅れること。目地が走行性を損ない、施工機械が大掛かりで、補修が困難なことだ。こうした短所がマイナスに評価され、アスファルト舗装が一般化するようになった。

アルトは重油とともに重質油分解装置で処理(熱分解)してナフサや灯油、軽油として利用している。そうすると最も単価の低かったアスファルトをわざわざ作る必要がなくなる。

道路舗装をコンクリート(白)にするか、アスファルト(黒)にするかという議論が

その1つの現れが最近のアスファルト価格の上昇だ。原油価格が高騰しているため製品価格が上昇している。

その1つの現れが最近のアスファルト価格の上昇だ。原油価格が高騰しているため製品価格が上昇している。

道路舗装をコンクリート(白)にするか、アスファルト(黒)にするかという議論が

また、石油精製工程の高度化事業としてアス

また、石油精製工程の高度化事業としてアス

道路舗装をコンクリート(白)にするか、アスファルト(黒)にするかという議論が

また、石油精製工程の高度化事業としてアス

また、石油精製工程の高度化事業としてアス



山田優名誉教授

道路舗装をコンクリート(白)にするか、アスファルト(黒)にするかという議論が

道路舗装をコンクリート(白)にするか、アスファルト(黒)にするかという議論が

## 年金Q&A

### ⑮ 障害年金—その2

Q 障害年金はいくら位もらえますか。

A 障害年金の金額は、障害になった人の給料(平均標準報酬月額)と厚生年金に加入していた期間によって決まります。ただし、加入期間が25年(300ヶ月)に満たない人の場合は25年加入していたとして計算します。計算の方法は次のようになります。

①(平成15年3月以前) 平均標準報酬月額×5・679/1000×加入月数×物価スライド

②(平成15年4月以降) 平均標準報酬月額×5・679/1000×加入月数×物価スライド

の2つに分けて計算して、①と②を合計した額が支給されます。この金額が障害厚生年金2級の人の金額です。1級の人の障害厚生年金の額は2級の障害厚生年金の額の2割5分増しになります。また、厚生年金に加入期間が25年(300ヶ月)に満たない人の場合は25年加入していたとして計算します。計算の方法は次のようになります。

①(平成15年3月以前) 平均標準報酬月額×5・679/1000×加入月数×物価スライド

②(平成15年4月以降) 平均標準報酬月額×5・679/1000×加入月数×物価スライド

の2つに分けて計算して、①と②を合計した額が支給されます。この金額が障害厚生年金2級の人の金額です。1級の人の障害厚生年金の額は2級の障害厚生年金の額の2割5分増しになります。また、厚生年金に加入期間が25年(300ヶ月)に満たない人の場合は25年加入していたとして計算します。計算の方法は次のようになります。

①(平成15年3月以前) 平均標準報酬月額×5・679/1000×加入月数×物価スライド

②(平成15年4月以降) 平均標準報酬月額×5・679/1000×加入月数×物価スライド

の2つに分けて計算して、①と②を合計した額が支給されます。この金額が障害厚生年金2級の人の金額です。1級の人の障害厚生年金の額は2級の障害厚生年金の額の2割5分増しになります。また、厚生年金に加入期間が25年(300ヶ月)に満たない人の場合は25年加入していたとして計算します。計算の方法は次のようになります。